



TOGAKU PRESS

TOGAKU生の活躍を
応援するマガジン

学生たちがSDGsに挑む!

「ゴミ問題はひとつじゃない。自分たちでなんとかしなくちゃ!」
そんな思いを持つ学生有志が集まり、立ち上げた“ゴミプロ”。
どのような活動をしているのか調査してみました!

学生発のSDGsプロジェクト
“ゴミプロ”を大調査!

都心の大学ならではの連携事例
つながる TOGAKU

野球部が悲願の2部初優勝!
TOGAKU SPORTS

ゴミプロ1期生
(現代経営学部3・4年生)

プロジェクトの詳細はP.2へ
P.12ではメンバーの自強不息をご紹介します!

「日本一ゴミの出ない大学」を目指す!

学生発のSDGsプロジェクト “ゴミプロ”を大調査!

大学のゴミ箱にあふれるゴミを減らすために、自分たちにできることってなんだろう——?
そんなテーマを探究するべく、現代経営学部の有志学生が立ち上げた“ゴミプロ”。学内での活動に加え、
最近では企業とのコラボや大学間連携にも取り組んでいます!

1期生は現代経営学部の
3・4年生7名!



今後はサークルとして
活動を広げていきます!

日本一ゴミの出ない大学プロジェクト=ゴミプロって?

現代経営学部「新商品開発ゼミ」(安藤拓生准教授)のゼミ生が、「授業で学んだことを活かしつつ、何か具体的なプロジェクトに取り組んでみたい」と自発的にチームを結成したのが“ゴミプロ”の始まり。メンバーの多くが環境問題やSDGsに関心を持っていたことから、活動のメインテーマは「ゴミの削減」となりま

した。メンバーたちは、「まずは身近な大学のゴミを減らすことから始めよう!」と一致団結し、「日本一ゴミの出ない大学プロジェクト」=通称“ゴミプロ”を発足。ゆくゆくは「学生たちがゴミ削減に取り組む→ゴミ処理費用を削減→削減分を学生たちに還元する」という仕

組みをつくりたい——。そんな目標を胸に秘め、ゴミの削減を訴えるさまざまな活動を行っています。

発足から約1年が経った今、“ゴミプロ”の活動の場は学外にまで広がりを見せています。そして今後は、サークルとしてプロジェクトを継続していく予定です。



詳しくはこちら!

ゴミプロ Member's Voice

どんな想いでゴミ問題に
取り組んでいるのか
聞いてみました！

ゴミゼロ ポーズ



北島董さん(3年)

コンビニのアルバイトを通じて、食べ物の廃棄がとんでもなく多いと気づき、ゴミ問題に関心を持っていました。そんな時、先輩方が“ゴミプロ”を立ち上げると知り、「身近な大学のゴミを減らすことに挑戦したい!」と思って参加しました。“ゴミプロ”の活動をする中でいろいろな人の意見を聞くことができ、視野を広げる機会にもなっています。

番麟太郎さん(3年)



鈴木あんさん(4年)

広報室の紹介で“ゴミプロ”に加入し、デザインを担当しています。初めはゴミ問題にあまり関心がなかったのですが、企画を実行するうちに学ぶ楽しさを知り、今では「学校中にプロジェクトを知ってほしい」と思いながら活動しています。今後も多くの人に活動を知ってもらい、ゴミを減らす原動力になるようなデザインや企画を練っていきたいです。

以前はゴミ問題に関心が薄く、イベント感覚の気軽な気持ちで“ゴミプロ”のメンバーになりました。でも、実際に活動していくうちに、さまざまなエコやリサイクルの方法があることを知り、追求するのが楽しくなっていました。自分がゴミ問題に無関心だったからこそ、無関心な人に「気づき」を持ってもらえるような活動をしていきたいです。



桑原寛さん(4年)

以前から大学でゴミ箱を目にするたびに「ゴミの量が多いな」と感じていて、「大学ではどんなゴミが出ているんだろう」、「処理にはどれくらいのお金がかかるんだろう」と気になっていました。“ゴミプロ”の活動を通じて、そういう身近な疑問を調査したり、さらには世界がどんなゴミ問題を抱えているかを学ぶ機会も得られ、勉強になっています。

当初はゴミ問題にあまり興味がなかったのですが、活動を通じて「ゴミを減らすといいことがある!」と発見。自分は動物が好きなので、「ゴミを減らせば野生動物たちが生きる環境も守れる」という気持ちがモチベーションになっています。“ゴミプロ”の活動は学生が主体となって企画を考えるので、企画のプロセスを学ぶいい機会にもなっています。



熊田光希さん(4年)

もともと環境問題や社会問題に興味があり、ビーチクリーンなどに参加していました。“ゴミプロ”の活動を通じて実感したのは、「行動する」ことの大切さ。勇気を出して行動したことで、同じ思いを持つ仲間と出会え、視野も広がりました。この先、日本の環境問題の裾野がもっと広がってほしいと思っているので、まずは大学内から変えていきたいです!



大和めぐみさん(4年)



稲井拓斗さん(4年)

2年次の授業で「これからの消費者は持続可能な商品を好む」と学び、SDGsに興味を持ちました。その頃から大学のゴミ箱にあふれるゴミの存在や、アルバイト先のコンビニでレジ袋を買う人が多いことが気になり、「自分にできることからやってみよう」と“ゴミプロ”に参加しました。活動に取り組む中でSDGsへの想いがさらに強くなっています。

Newest members!

今夏から参加!



小川響生さん(3年)

須田裕紀さん(3年)

がんばります!

活動を知ってもらうための プロモーションにも奮闘!



YouTube CM /

“ゴミプロ”発足後、メンバーたちがまず取り組んだのはポスター&CMの制作でした。目的は、自分たちの存在や活動を広く知ってもらうこと。ポスターにはメンバー各自のゴミ問題に対する考えを盛り込み、デザイン担当の鈴木さんがビジュアル化しました。また、CMは自分たちで構成、演出まで行い、メンバーそれぞれの個性や想いが伝わる内容に。完成したポスターは学内各所に掲示、CMはYouTubeで公開中です。

ポスターの
作成



CM動画の
作成



CM動画への出演(上)やナレーション収録(左)に挑戦するメンバーたち

ゴミプロの活動内容をご紹介します！

自分たちでイベントを企画・開催したり、企業とコラボレーションしたり。
SDGsの最先端である東京を拠点に、さまざまなチャレンジを行っています！

「ごみゼロの日」イベント

5月30日、「ごみゼロの日」に1日限定のゴミ箱“封鎖”イベントを実施！

「ゴミ問題を考えるきっかけにしてほしい」との想いから、「ごみゼロの日」に学内のゴミ箱を“封鎖”するイベントを“ゴミプロ”が実施。事前に学内の「ゴミの実態調査」を行い、分別状況やゴミの種類・量などを調べたうえで、学生や教員に対してゴミの削減を呼びかけました。学生ラウンジのゴミ箱を中心に通常より25kgのゴミを減らす成果を上げました。



当日は
ゴミ箱を“封鎖”！

大学から1日に出るゴミの量

約**60kg**

ごみゼロの日

約**35kg**

事前にゴミの実態を調査！

在学生にゴミ削減を
呼びかけました！



目指すは
ゴミゼロ！

大学で一番多いゴミ

コンビニ系プラゴミ（飲食物の包装）



「ゴミの実態調査」の一環として、学内のゴミ収集・分別を体験、大学地下の集積所を見学

NHKの取材も
受けた！



ゴミ箱アイデアコンテスト

在学生・教職員からゴミ箱のアイデアを募集！

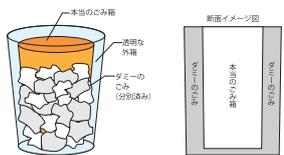
“ゴミプロ”が結成当初から温めてきた企画「ゴミ箱アイデアコンテスト」がついに実現！「思わず分別したくなる」、「ゴミを減らしたくなる」、「ゴミへの意識が変わる」ようなゴミ箱アイデアを募集し、最優秀賞を具現化するという内容です。

先日、最優秀賞が決定し、メンバーたちは現在、どんな素材でゴミ箱を作るのかを検討中。秋学期中の設置を目指しています。



大賞はコチラ！

常に「満杯のように見える」ゴミ箱



「ゴミを減らしたくなる」「分別を意識する」狙いが。

多くのアイデア
応募ありがとうございます！



学園祭

10月の学園祭「フェニックス祭」でゴミをテーマにしたアートを展示

「学園祭の来場者にもゴミ問題への意識を高めてもらえたら」と考え、学園祭でも催しを実施。学内で出たさまざまなゴミを使ってインスタレーションアートを作成し、皆が楽しめるフオトスポットを作りあげました。



飲料メーカーが主宰する
産学連携プロジェクトに参画

アサヒグループジャパン株式会社とアサヒユウアス株式会社が主宰し、7大学が参画する「MUP」(MOTTAINAI UPCYCLE PROJECT)に「ゴミプロ」が参画。テーマは「リサイクル率の低いペットボトルキャップをいかに回収・循環させるか」で、この9月から学内にキャップ回収BOXを設置しました。

また、メンバー3名がキャップリサイクル会社の工場に向き、キャップが買い物がごなどにアップサイクルされる工程を学びました。



繊維メーカーとのコラボによって
ペットボトル生まれのエコバッグを作成!

使用済みペットボトルを原料としたリサイクル繊維の開発にも力を注いでいる東レ株式会社。そんな東レの新ブランド「&+」と「ゴミプロ」がコラボし、リサイクル繊維でオリジナルエコバッグを作るプロジェクトが進行中です。現在、「ゴミプロ」のデザイン担当・鈴木あんさんがデザイン画を制作し、東レ側で素材を検討しています。

また、今後は東レの若手社員「チームZ」と「ゴミプロ」のコラボも計画されており、さらなる展開が期待されます。

私がデザイン画を担当しました!



東レ (株) × ゴミプロ

英文とアイコンでリサイクルの説明を入れる

素材は「&+」のリサイクル繊維



小学生向け夏休みイベント

ゴミを生まれ変わらせて自由研究の作品に!

“ゴミプロ”はこの夏、小学生向けに「大学生と自由研究をやってみよう! ~リサイクルじゃなくてイノベーションする夏休み~」を開催。小学生7名が参加しました。

当日はゴミ処理やリサイクルについて“ゴミプロ”が解説。その後、小学生が家庭ゴミを使って「誰かの役に立つもの」を制作しました。



メガネケースを作った小学生も!



小学生もゴミ問題に興味を持ってくれたみたい!

今後はサークルとして活動!

メンバー募集中です

“ゴミプロ”は9月にサークル申請を行い、今後はサークル「ゴミゼロプロジェクト」として活動していく予定です。部長の番さんと副部長の北島さんは、ともに3年生。彼らの主導で活動を継続・展開していきます。学部・学年を問わず、在学生の加入をお待ちしています!



副部長

ゴミ問題を一緒に考えよう!



部長



都心の大学ならではの“連携”プロジェクト

つながる TOGAKU

ビジネスや文化の発信地である「東京」にキャンパスを構えるTOGAKU。
恵まれた立地を活かし、さまざまな企業や人々とつながることで、得られる学びがここに 있습니다。

企業や専門機関とつながる

各学部の取り組み

■現代経営学部

本庄ゼミは、ディズニーやサンリオなどのキャラクターライセンスを持つスケーター株式会社と連携。マーケティング戦略やプロジェクトマネジメントについて学んでいる3年生が、同社に新たなマーケティング戦略を提案中です。



八塩ゼミは、横浜みなとみらいホールと連携。同ホールのリニューアルを盛り上げるべく、3年生が「SDGsの視点」と「大学生ならではの強み」を生かしたビジネス戦略を提案、採用が決定したアイデアも！

さらに、「安藤ゼミ×株式会社カンパウンド・ジャパン」、「隈本ゼミ×森林サービス関連のベンチャー企業」といった産学連携プロジェクトも予定されています。



■人間科学部

スポーツマネジメントについて研究している田蔵ゼミは、本学から一番近いプロスポーツ興行の現場・東京ドームで行われている「TOKYO DOME TOUR」に参加。近隣にプロスポーツビジネスの現場が多いという強みを生かしながら研究を深める予定です。



哲学を研究する飯田ゼミでは、都心の美術館や歴史、文化的スポットなどへのアクセスが良いという立地を活かし、学外研修を積極的に実施。6月には六本木の森美術館を訪問し、パンデミック以降のウェルビーイング（よく生きる・幸福）をテーマとした企画展を鑑賞しました。その後、ワークショップやプレゼンを実施し、アート作品を通じて「ウェルビーイング」を研究しました。



■グローバル・コミュニケーション学部

グローバル・コミュニケーション学科の「グローバルPBL2（集中）」と「エコツーリズム論」が、タイ・バンコクで合同実地研修を実施。現地では、国際交流基金バンコク日本文化センターのスタッフや、チュラロンコン大学の教員とも交流しました。帰国後は、現地で学んだことを授業やゼミの研究でさらに発展させる予定です。



9月、「日本語教員養成課程」の履修者5名が、高田馬場にあるヒューマンアカデミー日本語学校（東京校）のご協力を得て、日本語教育実習を実施。実習生たちは同校を訪れ、さまざまな国から来日した日本語学習者と交流を深めつつ、授業の実践に挑戦しました。



1～3年生が企業でのインターンシップに挑戦



キャリア教育科目（夏期集中科目）を履修した1～3年生が、夏休み期間中にインターンシップに参加。一人ひとりが自分の興味や目的に沿って業界・企業を選び、自力でエントリーしてインターンシップに挑みました。今年は「授業をきっかけに初めてインターンシップに参加した」という1年生も多数。周辺に企業があふれる「都心の大学」だからこそ、さまざまなインターンシップに挑戦することができたようです。



ブライダル、教育、アパレルといった複数企業のインターンシップを通じて、社風の違いや事業展開などを知ることができ、自分に向けた働き方も見つげられました。



グローバル・コミュニケーション学部3年 橋本愛可さん



地域とつながる

NGOと文京区の取り組みに 川口ゼミの学生が参加!

国際協力NGOのジョイセフ (JOICFP) と文京区の連携事業「I LADY」に、グローバル・コミュニケーション学科・川口ゼミの3年生3名が参加。ジェンダーや性暴力など、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (SRHR: 性と生殖に関する健康と権利) に関する研修を受け、「ピア・アクティビスト」に認定されました。認定を受けた3名は同世代にSRHRを伝えるべく活動中です。



ワースタ[※]が地域広報誌の 大学生記者として取材活動!

本学ワースタ4年の清水さん、3年の中川さん、2年の荒木さんが湯島・本郷地区町会連合会発行の地域広報誌「湯島・本郷町連だより」の記者に! 戦争体験の記事を担当し、7月に地域住民の取材を行いました。「戦争や疎開について生の声を聴くのは初めて。特別な体験でした」(荒木さん)。記事は同広報紙の第106号 (令和4年11月下旬発行) に掲載予定です。

※ワースタ (ワーク・スタディ・スタッフ) …本学の魅力を発信する学生集団



宮園ゼミの学生たちが 商店街の夏祭りを応援!

人間科学科の宮園ゼミは、本学至近の商店街「本郷大横丁通り」が主催する納涼祭に毎年参加しています。コロナ禍で中止が続いた納涼祭ですが、今夏は規模を縮小して再開され、ゼミ生たちも参加。防犯・SDGsクイズスタンプラリーや、地元の和太鼓グループとコラボした盆踊りなどを実施し、地域の方々と交流を深めました。



他大学とつながる

ウクライナの大学教員や大学生とオンライン交流

グローバル・コミュニケーション学部の坂本教授が、ウクライナの人々と交流する機会を学生たちに提供。坂本ゼミの学生は、キーウ国立経済大学の教員によるオンライン講義を受講しました。また、ICP (国際キャリアプログラム) の2年生は、ウクライナの大学生とオンラインで対話しました。



募金活動にも発展

ウクライナの大学との交流を機に、在学生と教員チームが協力して学内で募金活動を実施。6万円を超える募金が集まり、ウクライナ緊急募金を行っている国際NGOと日本ユニセフ協会に寄付しました。



文京学院大学生との交流

文京区を拠点とする本学と文京学院大学は、2021年より単位互換協定を締結していますが、2022年、課外活動においても連携を深めるための協定を締結。すでに茶道同好会やバスケットボール部が交流を始めており、今後も活発に交流する予定です。



ICPの学生がインドの大学生と交流

ICP (国際キャリアプログラム) の1・2年生が、インドのSymbiosis大学で日本語を学ぶ大学生とオンラインで交流。ICP卒業生で、現在はインド・デリーに赴任中の千田美雪さんもゲストとして参加しました。ICPの学生たちは東京にいながらにして国際交流を楽しみ、刺激を受けたようです。



高校とつながる

高校の探究学習をサポート

本学では今年度より、高校の探究学習をサポートする新たな高大連携企画をスタート。その第一弾として、高校生を対象とした特別探究セミナー「食べて、知って、企画して、チョコレートを深く学ぼう!」を開催しました。



我孫子二階堂高校と 高大連携協定を締結

本学と我孫子二階堂高等学校は2017年から協定を結び、「English Lounge 体験」などの高大連携活動を行ってきました。今後、その関係性をさらに深め、積極的な連携・交流を行うべく2022年に新たな協定を結びました。



TOGAKU NEWS



学生たちの活躍や、学校からのお知らせなど
キャンパスライフにまつわるニュースをお届け！

最新ニュースは
こちら



学園祭運営局の
屋台班による
お化け屋敷も！



ステージでは
学生団体が
ダンスや歌を披露！

学園祭

30回目の節目に3年越しの対面開催実現！ 学園祭「フェニックス祭～郷郷祭り～」

10/15（土）、16（日）の2日間、学園祭「フェニックス祭～郷郷祭り～」を開催。学園祭の30周年という節目の年に、初日はYouTubeでのオンライン配信、2日目は3年ぶりの対面開催というハイブリッド形式で行われました。オンラインではよしもお笑いライブや声優・俳優のトークショーを生配信し、視聴回数が6000回を超える盛況に。2日目は学生団体のステージやゼミの企画、お化け屋敷のほか、今井ゼミによる「カメラを止めるな！」上映&出演者トークショーや同窓会による講演会なども開催され、久々の対面開催を盛り上げました。



学部長賞

資格試験に合格した7名と 硬式野球部に学部長賞を授与

本学では、資格試験や大会等で優秀な成績を収めた学生に学部長賞を授与しています。今回は、資格試験合格者7名と、東京新大学野球連盟の春季2部リーグ戦で優勝を果たした硬式野球部が表彰されました。



久木田さん



山本さん



神奈川さん(手前左)、奈良さん(手前右)



硬式野球部(手前左・中)、中原さん(手前右)



模擬就活

Zoomでの面接を想定した 「オンライン模擬就活」を実施

3年生の必修科目「キャリアデザイン」の授業の一環として、今年も「オンライン模擬就活」を実施しました。この授業は、夏のインターンシップや就職活動に備えて、毎年6月末～7月上旬に学部ごとに開催されています。

学生たちは当日、実際の就活と同様に身なりを整え、面接会場となるZoomに自宅や学内からアクセス。外部講師が面接官役を務め、本番さながらの緊張感が漂う中、模擬グループ面接やグループディスカッションが行われました。終了後には講師から各学生への実践的なアドバイスも。学生たちにとって、自己分析を深めたり、自分の課題を発見するきっかけになったようです。



【学部長賞】

- 日商簿記検定試験2級合格
現代経営学部3年 久木田海帆
人間科学部3年 奈良出海
他1名
- 大阪商工会議所、施行商工会議所主催 メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅱ種(ラインケアコース)合格
人間科学部4年 神奈川麻衣 人間科学部3年 山本莉未、他1名
- 一般社団法人日本心理学諸学会連合主催 心理学検定2級合格
人間科学部3年 中原拓海
- 東京新大学野球連盟2022年度春季リーグ戦2部優勝(10勝0敗)
硬式野球部

新商品開発ゼミが 学食のリノベーションアイデアを提案



現代経営学部の「新商品開発ゼミ」（安藤拓生准教授）では、昨年度より「大学施設のデザイン」をテーマにした調査研究プロジェクトを行っています。今年度は「学食のリノベーションアイデア」を研究し、その集大成として本学施設課に向けてプレゼンテーションを実施しました。プレゼンの中では、「教員やカウンセラーと話せるスペースの設置」、「近隣商店街や飲食店との連携」、「TG-Navilに学食予約機能を導入」、「余った食材をお弁当にして販売」など画期的な案が次々と登場しました。

学食は2023年4月にリニューアルオープンを予定。今回の学生からの提案も踏まえてリノベーションが行われていきます。



Global Lounge

英語だけでなくグローバルな視点を! English LoungeはGlobal Loungeへ

今春リニューアルしたEnglish Loungeの活用アイデアコンテストが行われ、総勢102名が応募しました。その中から最優秀賞に選ばれたのは、グローバル・コミュニケーション学部3年の淀川彩さん。「いろいろな言語での交流の場」、「各国の文化が体験できる場」という活用アイデアを提案しました。また、同時に行われた投票により、新名称は“Global Lounge”に決定。秋学期から新名称に変更されました。このGlobal Loungeでは、新インターンにも会うことができます。

I can't wait to meet all of you!

It is a pleasure to meet everyone!



新インターンが着任!

Sophie Freestoneさん James Dunnさん



写真中央が最優秀賞の淀川さん



IEC (国際交流センター)

コロナ禍を乗り越えて世界へ! 多くの学生が留学にチャレンジ

今年度の夏期短期留学プログラムでは、8名の学生がイギリス・スウォンジー大学にて2週間の語学研修を行いました。また、秋学期からはICP 8期生の8名がアメリカに留学。さらに、グローバル・コミュニケーション学部の3名が、韓国、アメリカ、オーストラリアに長期留学中です。

夏期短期留学の
報告会



秋学期留学の
出発式



学生団体

学生たちが主体となって 体育祭や七台イベントを実施

コロナ禍で制限されていた学生団体の活動が復活の兆しを見せています。6月には体育祭運営局が体育祭を実施し、8チームがゾリバレーボールで対戦。撮影担当として卒業記念委員会も参加しました。また、7月には学生会運営部が伝統の七台イベントを開催。同時に川柳コンテストも行いました。

七台イベント



体育祭



Webラジオ

「SCHOOL OF LOCK!」のぺえ教頭が TOGAKU生を呼び出し?

Tokyo FMの人気番組「SCHOOL OF LOCK!」のスピノフコンテンツ「2022夏 大学生「リアル」呼び出し 実態調査」に本学の学生が登場! 同番組のぺえ教頭がTOGAKU生3人を呼び出し、大学生活について根掘り葉掘りのトークを展開しました。当日の様子はAuDeeで無料配信されています。



TOGAKUコピージウム

TOGAKUのキャンパスが 期間限定で美術館に变身!

本学と「宣伝会議賞」のコラボにより、「TOGAKUコピージウム」を12月まで開催しています。期間中は、全国の中高生が考えた「東洋学園大学の魅力を伝えるキャッチコピー」を1号館の1~5階に展示。在学生が鑑賞したのはもちろん、コピーの作者である中学生・高校生も来学しました。



TOGAKU SPORTS

最新情報は
こちら!



硬式野球部は、2022年度春季リーグ戦で10戦全勝を果たし、ついに2部初優勝を達成!
男女テニス部は、各選手が積極的に大会に出場し、奮闘しています。
また、ダンススポーツ選手の大西さんやCPサッカー選手の河野さんも活躍しています。

硬式野球部

2022年度春季リーグ戦で悲願の2部初優勝を達成!

東京新大学野球連盟に所属する本学硬式野球部が、2部リーグに昇格してから8年間、常に目標としていた2部初優勝をついに果たしました! しかも、2022年度春季リーグ戦の戦績は10戦全勝。今年度のスローガン「戮力協心(りくりよききょうしん)」を体現し、チーム一丸となって戦ったことが、全勝と2部優勝につながったようです。

この快挙の結果、硬式野球部は学部長賞も受賞(P.8参照)。中松主将は授賞式で「チームで努力した結果が実となり、このような賞をいただけることに感謝したい」とコメント。また、松原主務は「1部リーグ昇格に向けて、今後も練習に励みたい」と抱負を語りました。

現在は秋季リーグ戦の真っ只中。2部リーグで戦っており、7戦を終えた時点で5勝2敗となっています。今季もぜひ応援をよろしくお願いします!



男女テニス部

3年の小野海斗選手がさまざまな大会で好成績

2022年度は郡司龍美主将(4年)を中心に、男女計15名の部員が在籍する東洋学園大学テニス部。4月には各選手が「関東学生テニストーナメント大会(春関)」の予選で奮闘しました。また、JTA(日本テニス協会)トーナメント「ハクシン千葉オープン あじさいMTC4月大会」では小野海斗選手(3年)が準優勝。小野選手はさらに、6月の「2022年度第7回全日本テニス選手権大会山梨県予選会」男子シングルスで優勝し、「全日本テニス選手権東日本大会」への出場権を獲得しました。

9月には「関東学生テニスリーグ(団体戦)」が開催され、男子が出場。3部リーグで戦い、1勝4敗となりました。



ダンススポーツ(個人)

大西咲菜さんが世界を舞台に大活躍!

日本トップクラスのダンススポーツ選手として国内外で活躍中の大西咲菜さん(3年)。「2022全日本選手権10ダンス」では昨年に続き2連覇を果たし、2022年の「世界10ダンス代表選手」に内定しました。また、7月には第2のオリンピックと呼ばれる「THE WORLD GAMES」に出場し、ベスト18位という結果を残しました。



CPサッカー(個人)

河野凌久さんがCPサッカーの日本代表に

小学校5年生からCPサッカー(脳性まひ者7人制サッカー)を始め、クラブチーム「エスペランサ」に所属する河野凌久さん(1年)が、スペイン・バルセロナで行われた「2022 IFCPF Club Football World Cup」に出場。チーム最年少ながら全3試合にフル出場し、世界の選手と共にプレーしました。



東洋学園大学グラウンドが 2022年冬にリニューアル!

千葉県松戸市にある東洋学園大学グラウンドが2022年冬(予定)に生まれ変わります。土の全面入れ替えが完了した既存の野球グラウンドの隣に、テニス部の練習拠点となるハードコート3面を新設。コートには公式戦対応のナイター設備も完備予定です。さらに、コート横にはテニス部・硬式野球部の部室とトレーニングルーム、男女シャワールーム等を備えたクラブハウスも誕生予定。練習および試合環境の向上を図ります。



※画像は全て完成イメージです

東洋学園100年の歴史に迫る!

写真とともに!



七不思議

其の一

消えた2・3号館の謎

現在のTOGAKUの校舎は、1号館と4・5号館の3つだけ。
2・3号館は一体どこへ? というわけで、その謎を解明します!



当時の写真に
色付けしてみた!

当時の校舎は木造。
真っ白なモルタル塗り
「白亜の殿堂」と
呼ばれていたらしい。

手前の階段のあたりが
現在の1号館入口(水道橋側)。
当時ここは通用口で
正門は坂の途中にあった。

1959 (昭和34)年撮影
(現・1号館南側)



写真蔵・東洋学園史料室

坂の上の別棟は学生寮。
地方出身の学生が
たくさん生活していた。

都心の女子短大生らしく
みんなおしゃべり。
今見ると
レトロかわいい♡

実は2・3号館が存在した時代もあった!?

大正時代から現在まで、同じ場所で歴史を刻んできた東洋学園。もともと校舎は1つだけで、建て替えながら受け継がれていましたが、1945年、第二次世界大戦の空襲によってすべて焼失しました。

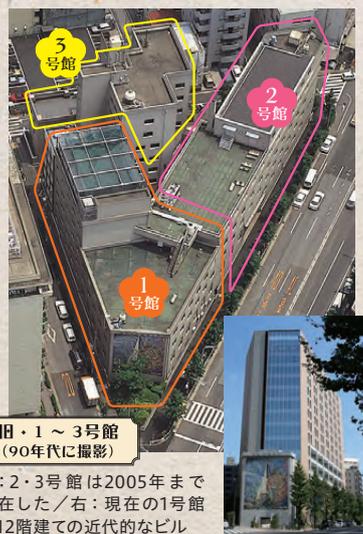
今回入手した写真に写っているのは、戦後に再建された第4代校舎。「女性歯科医を育てる専門学校」から「女子短大」へと学校の形態が変わり、学内にはファッションブルな女子短大生があふれていました。当時の校舎は「白亜の殿堂」と呼ばれ、そのモダンさが乙女心をくすぐったようです。

改めて写真を見てみると、この時もまだ校

舎は1つだけ。問題の2・3号館が誕生するのは1964年以降です。高度経済成長期が追い風となり、学生数が一気に増えて手狭になったため、1号館を建て替え、さらに2・3号館が新設されることに。その後、4・5号館も新設され、前後して形態も「大学」へと変わりました。

やがて21世紀に入ると、時代の変化に合わせて校舎を大幅に改築する計画が浮上。1～3号館をいったんすべて解体し、近代的な1つのビルに集約することになりました。

こうして完成したのが、現在の1号館です。2・3号館は新1号館に吸収され、幻の存在となってしまったのです。



旧・1～3号館
(90年代に撮影)

上: 2・3号館は2005年まで存在した / 右: 現在の1号館は12階建ての近代的なビル

東洋学園は2026年で100周年!

東洋学園誕生!

1917 (大正6)年
前身・明華女子歯科医学
講習所開校

1926 (大正15)年
東洋女子歯科医学専門学校 創立

1950 (昭和25)年
東洋女子短期大学 開学

1992 (平成4)年
東洋学園大学 開学

2・3号館完成

4号館竣工

5号館竣工

2・3号館解体

詳しくは
1号館9階の
史料室へ!

#自彊不息でいこう

Vol.4

メンバー全員に
共通する自彊不息は
“ゴミプロ”の継続!
各メンバーの詳細は
P.3をチェック!

「自彊不息」とは、「日々の努力を怠らず学びに励むことで成長し、社会を変えていく人間になってほしい」という願いを込めて継承されてきた東洋学園大学の建学の精神。ゴミの削減をテーマに活動している学生集団“ゴミプロ”のメンバーたちも、毎日の小さな努力を積み重ね、一歩ずつ成長しています!



4年 熊田さん 4年 稲井さん 3年 番さん 3年 北島さん 4年 桑原さん 4年 大和さん 4年 鈴木さん

